

がん克服しウルトラマラソン完走

茅野市出身 大久保さんが講演

生還記出版で

絶な生き様は、来場者病とリハビリを続け、13年のサロマ湖100キロマラソンを7年

全うに生きていても、落とす穴に落ちたり、真つ暗なトンネルに入ることもある。希望を持ち続けられれば、必ず乗り越えられる。人生何度でもやり直せるし、何度でもチャンスはある」と、大きな病気に苦しんでいる人に向けてメッセージ。「次の目標はサハラ砂漠250キロレースの完走。80歳代で体力がピークになるよう挑戦し続けた(税別)。

がん生還記「命のスタートライン」を出版した、茅野市宮川出身の大久保淳一さん(51)が19日、岡谷市の笠原書店本店で、出版記念講演会を開いた。生存率20%以下といわれるがんを乗り越え、ポジティブ思考で100キロのウルトラマラソンを走れるまでになった壮絶な生き様は、来場者病とリハビリを続け、13年のサロマ湖100キロマラソンを7年清陵高、名古屋大学大学院修了。外資系投資銀行に勤務中の2007年、42歳の時に最終ステージの精巣(こうそ)がんを発症、肺線維症の合併症で5年生存率20%以下と宣告された。

病とリハビリを続け、13年のサロマ湖100キロマラソンを7年ぶりに完走。今年6月の大会では悲願の自己新記録、その姿はがん患者たちに生きる希望を与えた。現在ががん克服経験者や治療中のがん患者、その家族をつなぐ支援交流サイト「5years(ファイブイヤーズ)」運営の代表を務める。



がん克服の闘病体験を語る大久保さん

講演のなかで大久保さんは「人はどんなに

講演のなかで大久保さんは「人はどんなに